

【出題形式・方針】

全問題を記述式で構成しており、大問3題を通じて「力学」「電磁気」「熱力学」「前期量子論」など、物理基礎および物理の全範囲から幅広く出題している。各大問では、日常的・実験的な物理現象や具体的な設定を題材とし、現象を理論的に捉える力、そしてその理解をもとに論理的に記述する力を問う構成としている。

出題はすべて高等学校で学習する範囲内に収めているが、単純な計算処理にとどまらず、複数の条件が段階的に提示される構成を通じて、前提を正しく理解したうえで次の思考へつなげる力を評価している。現象間の関係性を把握し、筋道立てて解答を構築する姿勢を重視している。

また、設問文には比較的長めの日本語による説明を含む場合もあり、物理的読解力とあわせて、文章の要点を正確に整理する力も求めている。受験生には、教科書レベルの基礎知識を確実に理解したうえで、与えられた情報をもとに、論理的かつ粘り強く思考し、自分の言葉で的確に記述する力が求められる。

全体を通して、物理的理解・論理的思考・表現力の3つの力を総合的に評価する出題方針としている。